

5月10日MT メインセッション

司会：エール学園キャリア支援本部 本部長 西村康司

開会の挨拶：エール学園 萩原副総長

・ベトナムの留学生のマーケット、日本語教育が少し衰退していていると聞いている。
→活性化に向けて ABC プラットフォームという視点でも、日本語教育という視点でも、我々に何ができるかを議論したい。

・日本に人材が流入してくるベースは日本語教育である。そこが揺らいでいるということは、我々にもすべきことがあるということである。

・現地の日本語教育には参加していくべきだ。オンライン教育という可能性。

・ABCPLの活動も、オンラインのメリット、対面のメリットを考えながら活動を考える時期がきている。日本語教育を軸に活動をすすめていく。

主催：エール学園、インドネシア総合研究所

共催：ABCプラットフォーム

留学生支援コンソーシアム大阪

森興産株式会社

グローバル共和国

■イベントの趣旨など（西村）

趣旨：

インドネシアの大学と産官学交流会

前回ダナン外大さんと交流

その際、アルビーさんからインドネシアでもとご提案があった

目的：

現地の大学生が日本の企業との交流を望まれている。現地で日本語を教えている先生方と繋がりたい。そこと日本企業50社とのイベント。現在60社になろうとしている。

産官学での連携がテーマ、JETRO、近経局、大商さんからも参加がある。

企業進出促進。

アルビーさんはインドネシア進出のサポートもかなりやっている

進出においてインドネシア語ができる人が必要になっていくので、インドネシアとの大学との連携が必要

万博、海外の大学の方は次の万博が大阪とほとんど知らない。

そういった日本語学習者にきてほしい、留学してきて万博を日本で迎えてほしい
今回も共創チャレンジに登録予定

日刊工業新聞様、JETRO 大阪様本部、大阪観光局様、留学生支援コンソーシアム大阪様を
共創パートナーに入っただき、協力して開催。

■インドネシア側ご挨拶

インドネシア総合研究所アルビーさん

インドネシア進出支援の会社経営

研修、コンサル、教育、金融など色々なことをしている。

今回確実に参加できる大学は

- ・サンガブアナ大学
- ・パジャジャラン大学
- ・バクティアシ学園

ガジヤマダ大学とも交渉中（日本語学科ある）

バンドン工科大学（日本語学科はないが、インドネシア上位の大学）声をかけている

ジャカルタ芸術大学 アニメなどやっていて興味をしめしてくれたので参加してくれるかも

パラハヤンガンカトリック大学 学生数 15000 くらい、日本語学科はまだないがぜひ参加したいとのこと

2018年に茨城からの「外国人に選ばれたい県」プログラムをやっている。

200名の技能実習生を調査、ほとんど日本語ができない。

2019年、学校設立、N3まで。今年ようやく日本との行き来ができるようになったので
バンドンを中心に作っている。

インドネシア大学生 800万人、すぐに就職しない。

学校を作ることで、日本に優秀な人材は送れないかと考えている

日本にあこがれる学生は多いが、接点がない。

バンドンのジャパンセンターを作ったので、交流できればと思う。

■大阪観光局 山口智子様

昨年12月の外国人留学生エキスポをまた今年も7/30.31に開催する

溝畑理事長がアジアNo.1都市を目指している

観光行政が留学生プログラムを。

7/12 は西村さん、森社長、白木先生でセミナーをする

■森興産株式会社 森隼人社長

コロナの2年で状況が大きく代わり、海外の留学機関もかなりの数が統合、廃業になったもう一度誘致に力をいれなければならない→現地の学校との繋がりを強化。

アルビーさんを通して、現地の大学とも繋がり、企業さまも繋がっていただき、そのあとの採用という成長につなげたい。

万博もある、そこに向けて取り組んでいきたい。

■音声 SNS clubhouse の最大クラブ グローバル共和国 大田勉先生

世界各国、発起人はロスで日米ビジネスをしている皆見ゆきこさん

製造業、農業、地域振興、ビジネス

去年4月4日より毎朝やっている団体、8900人

世界との繋がり、インドネシアとの繋がりに何かお役に立ちたい。

朝から300人集まる団体である。

■関西経済連合会 Bangkok desk 佐田国全様

ASEANも規制緩和が始まりだした。以前のように自由に行き来できるのが迫ってきている
近々シンガポール出張も考えていえる

写真撮影

ブレイクアウトの説明（森社長）

（ブレイクアウトルーム）

各ルームのシェア：

[ルーム1]

- ・観光業をもっと入れたらいい
- ・ホワイトリストの話
- ・インドネシアの方がどんなことを本当に学びたがっているのかという質問があった。
- ・留学希望者の親御さんが不安に思っていること

[ルーム2]

- ・人を選ぶ基準で、食べ物やアルコール、宗教の話もあるが、最終的には人柄である

- ・一人ひとりに向き合う前の前提としての理解を深めないといけない
- ・インドネシア人の人柄の良さ、仕事するとき日本人と合いやすいのではないか
- ・医療分野においては、インドネシアにおいては宗教的問題があっても、日本にきたということを変えながら、日本に合わせていくという気遣いもできる
- ・人口としては、インドネシア、インド、フィリピンはまだ人口が増えるので継続して長期に採用を考えたときに、インドネシアは目的地になる
- ・万博を見据えて、各パビリオンに外国人スタッフを配置するなど、新しいビジネス創出を増やす。自社の中に世界地図を作る。色んな国籍の方を採用する流れがまた作れるのではないか。
- ・ハラルワッフルケーキ

閉会の挨拶：関西経済連合会 国際部 村上あけみ様

堅苦しくなく、ざっくばらんに様々な話で盛り上がった。

インドネシアへ行く前はテロもあり、怖い国だと思っていたが、行ってみると温かかった。

バンドンに日本語学校ができてきていると見えていない部分があることがわかった。

関経連のスタートアップの方で言われるのが、学生側は期待をもって訴えてくるのに対し、答える企業側が聞いてあげようという感じではなく、頑張っ来ようとしている人の気持ちが崩れてしまうことがある。心配していたが、今回のみなさんはインドネシアに興味をもっている人が多く、今日聞けなかったことなど課題をたくさんもって7/12に臨むのがいい。楽しく進めて行くことが成功に繋がると感じた。

以上